

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0364

(注)本稿は 2015 年 11 月 30 日から 12 月 7 日まで 6 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2015.12.9
前田 高行

アラブトップのクウェイトでも世界145か国中の117位:2015年版世界男女格差報告

(MENA なんでもランキング・シリーズ その8)

目次	頁
1. 「世界男女格差報告2015」について	2
2. MENA の平均世界順位は128位、日本も142か国中101位	3
3. 分野別順位	
(1) 経済分野の男女格差	4
(2) 教育分野の男女格差	4
(3) 健康・寿命分野の男女格差	5
(4) 政治分野の男女格差	5
4. 2010～2014年の総合ランクの推移	
(1) MENA では5年連続でイスラエルがトップ、イエメンが最下位	6
(2) MENA の世界順位は毎年徐々に悪化	6
5. 中東5カ国と日米中の要素別比較(レーダーチャート)	
(1) チャート1(トルコ、エジプト、イラン)	7
(2) チャート2(サウジアラビア、UAE 及び MENA 平均)	7
(3) チャート3(日本、米国、中国)	8

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシヤ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

ここでは世界経済フォーラム(World Economic Forum, WEF)が行った「世界男女格差報告2015(The Global Gender Gap Report 2015)」から MENA 諸国をとりあげて比較しました。

1. 「世界男女格差報告2015」について

「世界男女格差報告2015(The Global Gender Gap Report 2015)」(以下「2015年版報告書」)を公表した「世界経済フォーラム」(World Economic Forum, WEF)は、スイスのジュネーブに本部を置く非営利団体であり、毎冬スイスのダボスで行われる「ダボス会議」の主催者としてよく知られている。

「2015年版報告書」は世界145カ国を対象に経済、教育、健康、政治の4つの分野について、世界或いは各国の公的機関が公表する男女別のデータに基づき、それぞれの分野の男女間の格差を指数化し順位付けを行ったものである。

* WEF ホームページ: <http://reports.weforum.org/global-gender-gap-report-2015/>

(1) 比較対象される分野とその内容

対象とされるのは以下の4つの分野であり、各分野にはそれぞれ二つ乃至五つの比較項目がある。

I 経済参画分野: 経済活動への参加度及び参画の機会(Opportunity)に関する男女格差

比較項目: (1) 労働参加比率、(2) 同一労働賃金格差、(3) 平均所得格差、
(4) 幹部職比率、(5) 専門・技術職比率

II 教育分野: 教育の機会に関する男女格差

比較項目: (1) 識字率、(2) 初等教育就学率、(3) 中等教育就学率、(4) 高等教育就学率

III 健康・寿命分野: 健康と寿命に関する男女格差

比較項目: (1) 新生児男女比率、(2) 平均寿命

IV 政治参画分野: 政治参画の度合に関する男女格差

比較項目: (1) 女性議員比率、(2) 女性閣僚比率、
(3) 過去50年間の女性元首(首相等)在任期間

(2) 指数化の方法と順位付け

145カ国について上記四つの分野の各比較項目に関する男女それぞれの数値或いは比率のデータを抽出し、この男女のデータについて男性を1とした場合の女性の指数を算定する(最大値は1とする)。この指数の意味は、指数1の場合男女が完全に平等であることを意味しており、指数が低くなればなるほど男女の格差が大きいことを示している。

各比較項目の指数を加重平均したものを、その分野の指数とする。最後に4つの分野の指数を加重平均したものがその国の格差指数であり、145カ国の指数を上位から順に総合順位を付けるのである。

2. MENA の平均世界順位は128位、日本も142カ国中101位 (末尾表 8-T01 参照)

「2015年版報告書」は、上記の方法(前項1参照)により145カ国のそれぞれの総合指数を算出し順位付けを行ったものである。このうち MENA は17カ国が順位付けの対象となっている。今回調査対象とならなかったのはイラク、リビア、パレスチナ自治政府の2ヶ国1機関である。

MENA 諸国の世界ランクの特徴はイスラエルを除く16カ国が全て100位以下と言う極めて低いレベルにあることである。MENA トップのイスラエルは世界ランク53位であり、イスラエル以外の MENA 各国の世界ランクは低く殆ど差が無い。イスラエルに続くのはクウェイト(世界ランク117位)であり、このほか UAE(119位)が110位台に入っている。

そしてカタール(122位)、バハレーン(123位)、チュニジア(127位)、アルジェリア(128位)の4カ国が120位台にひしめいている。そして世界でも最低ランクである130位以降はトルコ(130位)、サウジアラビア(134位)、オマーン(135位)、エジプト(136位)、レバノン(138位)、モロッコ(139位)、ヨルダン(140位)、イラン(141位)、シリア(143位)及びイエメン(145位)の各国であり、特にイエメンは世界最下位である。MENA の世界平均順位は128位であり、イスラエルを除く MENA 諸国は男女格差が大きく、男女平等が遅れた地域と言えよう。

ちなみに世界1位はアイスランドであり、2位以下にはノルウェー、フィンランド、スウェーデンの北歐3カ国が並んでいる。ベスト・テンではアジアでただ1カ国フィリピンが7位にランク付けされている。これに対して日本は101位である。日本は米国(28位)に大きく後れをとっており、中国(91位)よりもさらに低いランクである。日本は男女格差が非常に大きな国であると評価されていることがわかる。

上記の世界ランクを昨年と比較すると、MENA 諸国では MENA トップのイスラエルが昨年より12ランク上昇しているだけで、その他の MENA 諸国は(バハレーンがわずかに1ランク上がったことを除けば)すべての国のランクが下がっている。即ち MENA 2位のクウェイトは4ランク下がり(113位→117位)、UAEも115位から119位に落ちている。カタールの場合は116位から122位に大きく下げており、同様にオマーン(128位→135位)、エジプト(129位→136位)、モロッコ(133位→139位)、ヨルダン(134位→140位)の各国もランクを落としている。そして MENA の平均順位は昨年

の124位から今年は128位に下がっている。なお全世界の評価対象国数が昨年の142か国から今回は145か国へ3か国増えているため、下位の国々はランクが押し下げられる傾向にあるが、それでも4ランク以上下落した MENA の国々は男女格差の世界ランクが昨年より悪化したと言える。(日本は昨年の104位から少し上昇している)。

3. 分野別順位 (末尾表 8-T02 参照)

経済、教育、健康・寿命及び政治の四分野ごとに見た MENA17カ国の順位は以下のとおりである。

(1) 経済分野の男女格差

経済分野の男女格差が MENA で最も小さいのはイスラエルで、同国の世界順位は71位である。第2位はカタールの世界97位であり、両国以外の MENA15か国は全て世界100位以下である。104位のクウェイト以下、バハレーン(同113位)、UAE(同128位)と GCC 諸国が続いている。総合順位134位のサウジアラビアはこの分野では138位である。経済分野の MENA の平均世界順位は128位となっており、総合の平均順位と同じである。MENA では経済分野における男女格差が大きいと言えよう。

因みにこの分野における日本の世界順位は106位であるが、詳しい内容を見ると女性管理職のランクは世界116位であり、専門技術職の世界ランク81位に比べ女性の昇進の壁が厚いようである。また賃金の男女格差は世界平均を上回る69位である。

(2) 教育分野の男女格差

教育分野もイスラエル(世界51位)が MENA のトップである。MENA でこれについて世界順位が高いのはクウェイト(世界77位)及びサウジアラビア(同82位)であるがそれでも世界145か国の上位グループには入っていない。これに続くのは UAE(同86位)、オマーン(同92位)、ヨルダン(同93位)、バハレーン(同94位)、カタール(同96位)が世界100位以内に入っている。世界順位100位以下ではシリア(103位)、レバノン(104位)、トルコ(105位)、イラン(106位)、チュニジア(107位)及びアルジェリア(110位)が100位から110位までにひしめき合っている。

この分野の MENA の平均世界順位は99位である。実は世界的に見てこの教育分野の男女格差は小さく、スコアが1.000の国(即ち男女格差が全くないか、または女性の方が教育度の高い国)が25カ国もあり、イスラエル(世界51位)のスコアは0.996、エジプト(同115位)のそれは0.935である。

日本は文盲率、初等・中等教育は男女に差が無いが、高等教育にわずかな男女格差がありポイントが0.988である。この結果日本の世界順位は84位とされ、この分野ではごくわずかなスコアの差で順位が大きく上下することがわかる。

(3)健康・寿命分野の男女格差

この分野の特徴は世界的に見て男女格差が比較的少ないことである。指数の最高は0.980であり世界40カ国が同じ指数である。そして最も低い中国の指数は0.919であり、トップと最下位のポイント格差は0.061にとどまっている。これは前述の教育分野以上に男女格差が小さく、経済格差の場合トップのノルウェーの0.868に対し、最下位のイエメンの指数が0.225であることと比べ各国間の格差が非常に小さい。このためわずかな差で順位が大きく変わる事となる。

MENA 諸国の中ではUAE(指数0.980)が世界のトップグループに入っている。これに次ぐのがイスラエル(同0.974)、モロッコ(同0.971)、エジプト(同0.971)、イラン(同0.971)、オマーン(同0.971)等の国々である。これに対して指数が低いのはカタール、クウェイト(同0.957)、サウジアラビア(同0.966)等の湾岸産油国であり、医療福祉制度の充実した湾岸産油国がエジプトなどよりも男女格差が大きいという意外な結果を示している。これは湾岸産油国では制度が男性優位のまま発達しているのに対し、エジプトでは制度が未発達のため男女の格差がかえって小さいという逆説的な状況を示しているためと言えよう。

日本は指数がトップとわずかに0.001低い0.979であるが、トップが40カ国あるため世界ランクは42位となっている。詳細を見るとこの分野は二つの項目(新生児の男女比率及び男女の平均寿命)によって指数が算出されており、日本の場合平均寿命は女性が男性を上回るため指数は1.00(実際の計算では1.06)となるが、新生児の男女比率は男性が女性を上回っているため指数は0.94となっている。

(4)政治分野の男女格差

この分野は世界各国の政治体制の違いに左右される面が大きい。またこの分野はトップのアイスランドの指標が0.719、米国が0.162であるなど上記の健康・寿命指標に比べて世界的に指標値が低く、また各国間の格差が大きい。MENA 各国の指標もトップのイスラエルですら0.205にとどまり、指標0.1以下の国が全体の3割の40カ国に達する。因みに日本は0.103(世界104位)、中国は0.162(同73位)である。

MENA 諸国間の比較で男女格差が少ないと評価されているのは、イスラエル(世界54位)のほかアルジェリア(同55位)、チュニジア(同69位)、UAE(同93位)などであり、反対に格差が最も大きいのはカタールで同国の世界順位は145カ国中の144位である。GCC6カ国はカタールの他サウジアラビア(同130位)、バハレーン(同138位)、クウェイト(同141位)、オマーン(同142位)などUAEを除き軒並み世界順位が低く男女格差が大きい。

政治の男女格差は女性の国会議員、閣僚及び過去50年間の女性元首(首相等)の在任期間でランク付けされているため全体的に各国ともスコアが低く、また同じ先進国でもヨーロッパに比べ日米のランクが低い結果となっている。

4. 2011～2015年の総合ランクの推移

2011年から2015年までの5カ年間の MENA 各国の順位の推移を追うと概略以下の通りであ

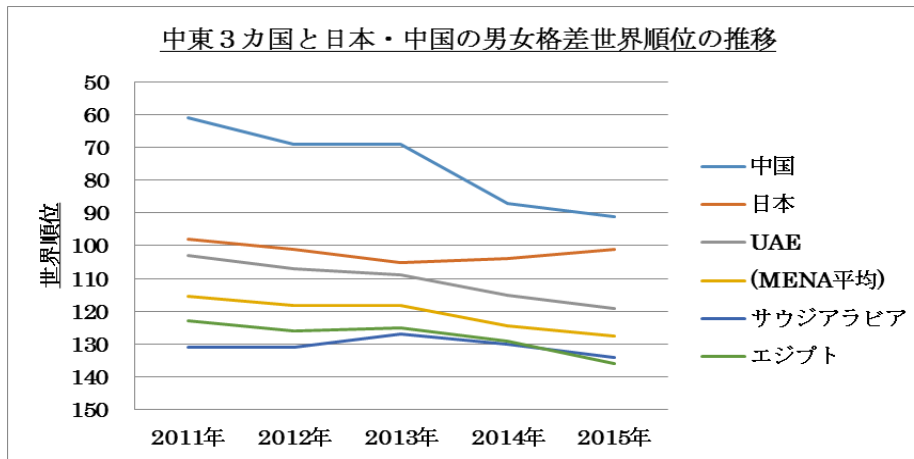
る。

(1) MENA では5年連続でイスラエルがトップ、イエメンが最下位 (末尾表 8-T03 参照)

5カ年を通じてイスラエルは常に MENA1位であり、しかも世界60位前後と MENA2位以下が全て100位以下であるのに比べ大きな開きがある。MENA2位は2011年以降2013年まではUAEであったが、過去2年はクウェイトに代わった。カタールは2011年の6位から2012年には5位、そして2013年以降は MENA4位である。

これに対してシリアは5年間の世界順位が124位(11年)→132位(12年)→133位(13年)→139位(14年)→143位(15年)と毎年下がり続け、世界最下位のイエメン(145位)との差が殆ど無くなっている。またイランも2011年以降は毎年世界順位が下がっており、2011年の125位が2015年には141位になっている。

(2) MENA の世界順位は毎年徐々に悪化



UAE、サウジアラビア、エジプトの3カ国と MENA 平均に日本及び中国2カ国を加えて過去5年間の男女格差世界順位の推移を比べると中国の順位の下落が顕著である。中国は2011年には世界61位で

あったがその後69位(12年、13年)→87位(14年)→91位(15年)と毎年下がり続けている。

MENA の世界平均順位も116位(11年)→118位(12年及び13年)→124位(14年)→128位(15年)と毎年低下している。これを指数で見ると0.6035(11年)→0.6041(12年)→0.6953(13年)→0.6119(14年)→0.612(15年)と一昨年までは毎年上がっていた。それにもかかわらず MENA 諸国の平均順位が上がらないのは、改善のペースが世界の平均以下にとどまっていることを示している。

サウジアラビア、エジプトおよび UAE3カ国の過去5年間の世界順位はサウジアラビアが131位(11年及び12年)→127位(13年)→130位(14年)→134位(15年)、エジプトは123位(11年)→126位(12年)→125位(13年)→129位(14年)→136位(15年)、そして UAE は103位(11年)→107位(12年)→109位(13年)→115位(14年)→119位(15年)である。サウジアラビアは世界順位に大きな変化はないが、エジプトも UAE も共に長期低落傾向にある。

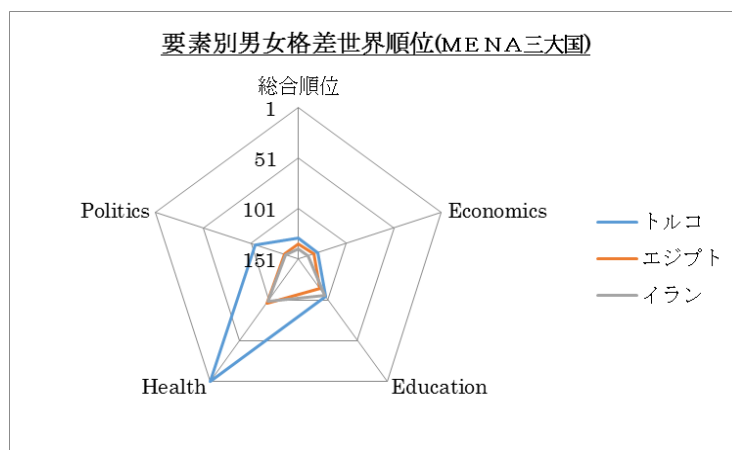
日本は2011年に98位であったが2012年以降は100位以下に低迷している。但し2014年以

降は105位(13年)→104位(14年)→101位(15年)と徐々に改善の兆しが見られる。中国は凋落が顕著であり2011年の61位以降は69位(12年及び13年)→87位(14年)→91位(15年)と下がり続けているが、依然として日本より上位である。

5. 中東5カ国と日米中の要素別比較(レーダーチャート)

MENA の三大国(トルコ、エジプト、イラン)、GCC2カ国(サウジアラビア、UAE)及び MENA 平均並びに日本、米国、中国3カ国を取り上げ、総合順位と4つの分野別順位(経済、教育、健康及び政治)をレーダーチャートで表してみる。レーダーチャートは最も外側が世界1位(つまり男女格差が世界で最も小さい)であり、以下中心に向かうほど順位が低くなる(即ち男女格差が大きい)。グラフの実線が外側に広がるほど男女格差が少ないことを示し、また真円に近いほど男女格差のバランスが取れていることを示している。

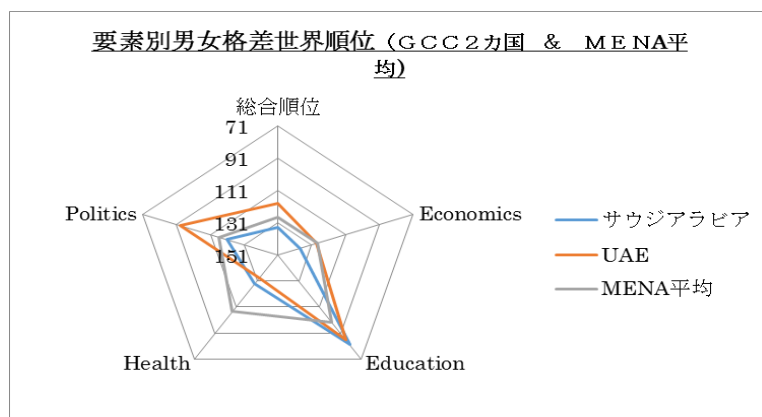
(1)チャート1(トルコ、エジプト、イラン)



トルコ、エジプト、イランは総合順位が世界130位、136位、141位といずれも低いランクにとどまっている。4つの分野の中では3カ国とも経済分野の男女格差がおしなべて悪く、また政治ランクもエジプト、イランが130位台と悪い(トルコは105位)。教育分野は3カ国ともほぼ同じ順位であり、トルコ105位、イランは106位、エジプト115位である。健康は男女

格差が比較的少ない分野であり、トルコは世界1位である(但し上記3に述べたとおりトルコのほかに40カ国が同一指数の世界1位である)。エジプトは97位、イランは99位。

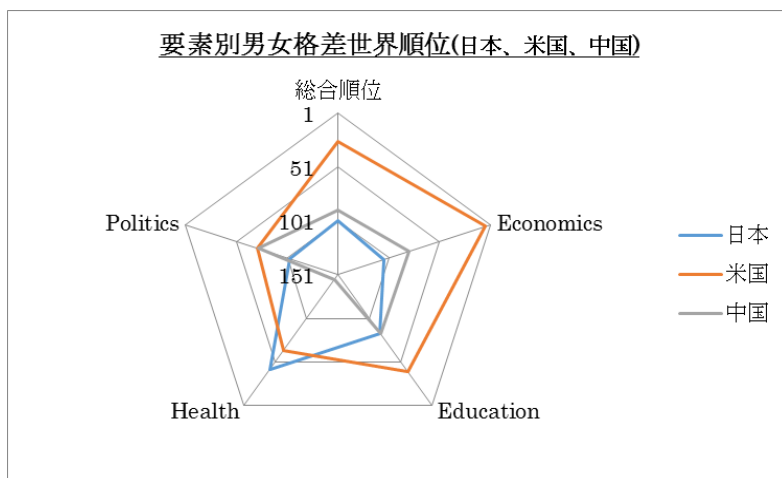
(2)チャート2(サウジアラビア、UAE 及び MENA 平均)



総合順位は UAE119位、MENA平均128位、サウジアラビア134位である。経済分野の男女格差はUAEとMENA平均は同じ128位であるがサウジアラビアは世界144カ国中では最低レベルの138位にとどまっている。政治分野もUAEの世界93位に対しサウジアラビアは121位である。この分野の

MENA平均は世界116位。教育分野はいずれも総合順位よりも高く、UAEは86位、サウジアラビア82位でありいずれも世界100位以内に入っている。健康分野はMENA平均が108位であるが、サウジアラビアは129位、UAEは133位とランクが低く、男女間の格差が大きいことを示している。

(3)チャート3(日本、米国、中国)



総合順位では米国が28位であるのに対して、中国及び日本はそれぞれ91位、101位にとどまっており特に日本のランクの低さが目立つ。米国は経済の男女格差は世界6位であり、その他の分野は教育格差が世界40位、政治格差は世界72位、健康格差は世界64位である。中国は経済、教育、政治のいずれの分野でも日本を上回っているが、

健康分野だけは男女格差が世界最低の145位である。総合順位101位の日本は健康分野が世界42位で米国及び中国を上回っているが、その他の3分野(経済、教育及び政治)の男女格差は米国及び中国よりも遅れており、特に政治分野の男女格差が大きい。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

男女格差指数2014年/2015年

	国名	2015年 (対象国数:145)		2014年 (対象国数:142)		2014/2015 年比較	
		世界順位	Index	世界順位	Index	世界順位	Index
1	イスラエル	53	0.712	65	0.7000	12	0.0120
2	クウェイト	117	0.646	113	0.6457	▲ 4	0.0003
3	UAE	119	0.646	115	0.6436	▲ 4	0.0024
4	カタール	122	0.645	116	0.6403	▲ 6	0.0047
5	バハレーン	123	0.644	124	0.6261	1	0.0179
6	チュニジア	127	0.634	123	0.6272	▲ 4	0.0068
7	アルジェリア	128	0.632	126	0.6182	▲ 2	0.0138
8	トルコ	130	0.624	125	0.6183	▲ 5	0.0057
9	サウジアラビア	134	0.605	130	0.6059	▲ 4	▲ 0.0009
10	オマーン	135	0.604	128	0.6091	▲ 7	▲ 0.0051
11	エジプト	136	0.599	129	0.6064	▲ 7	▲ 0.0074
12	レバノン	138	0.598	135	0.5923	▲ 3	0.0057
13	モロッコ	139	0.593	133	0.5988	▲ 6	▲ 0.0058
14	ヨルダン	140	0.593	134	0.5968	▲ 6	▲ 0.0038
15	イラン	141	0.580	137	0.5811	▲ 4	▲ 0.0011
16	シリア	143	0.568	139	0.5775	▲ 4	▲ 0.0095
17	イエメン	145	0.484	142	0.5145	▲ 3	▲ 0.0305
	イラク	-	-	-	-	-	-
	リビア	-	-	-	-	-	-
	パレスチナ自治区	-	-	-	-	-	-
	(MENA 平均)	128	0.612	124	0.6119	▲ 4	0.0003
	世界 1 位	アイスランド	0.881	アイスランド	0.8594		0.0216
	最下位	イエメン		イエメン	0.5145		▲ 0.5145
	日本	101	0.670	104	0.6584	3	0.0116
	米国	28	0.740	20	0.7463	▲ 8	▲ 0.0063
	中国	91	0.682	87	0.6830	▲ 4	▲ 0.0010

Source:World Economic Forum (WEF)

<http://reports.weforum.org/global-gender-gap-report-2015/>

男女格差指数2015 (The Global Gender Gap Index) 要素別

国名	総合順位	経済分野	教育分野	健康・寿命分野	政治分野
アルジェリア	128	137	110	128	55
バハレーン	123	113	94	133	138
エジプト	136	135	115	97	136
イラン	141	141	106	99	137
イラク	-	-	-	-	-
イスラエル	53	71	51	69	54
ヨルダン	140	142	93	132	123
クウェイト	117	104	77	137	141
レバノン	138	136	104	103	143
リビア	-	-	-	-	-
モロッコ	139	140	123	95	97
オマーン	135	134	92	100	142
パレスチナ自治政府	-	-	-	-	-
カタール	122	97	96	137	144
サウジアラビア	134	138	82	129	121
シリア	143	144	103	102	130
チュニジア	127	133	107	111	69
トルコ	130	131	105	1	105
UAE	119	128	86	133	93
イエメン	145	145	142	123	140
(MENA 平均)	128	128	99	108	116
アイスランド	1	5	1	105	1
日本	101	106	84	42	104
米国	28	6	40	64	72
中国	91	81	83	145	73

Source:World Economic Forum (WEF)

<http://www.weforum.org/videos/global-gender-gap-report-2015>

男女格差指数世界順位の推移2011～2015年

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
(対象国数)	135カ国	135カ国	136カ国	142カ国	145カ国
アルジェリア	121	120	124	126	128
バハレーン	110	111	112	124	123
エジプト	123	126	125	129	136
イラン	125	127	130	137	141
イラク	-	-	-	-	-
イスラエル	55	56	53	65	53
ヨルダン	117	121	119	134	140
クウェイト	105	109	116	113	117
レバノン	118	122	123	135	138
リビア	-	-	-	-	-
モロッコ	129	129	129	133	139
オマーン	127	125	122	128	135
パレスチナ自治政府	-	-	-	-	-
カタール	111	115	115	116	122
サウジアラビア	131	131	127	130	134
シリア	124	132	133	139	143
チュニジア	108	-	-	123	127
トルコ	122	124	120	125	130
UAE	103	107	109	115	119
イエメン	135	135	136	142	145
(MENA 平均)	116	118	118	124	128
世界1位	アイスランド	アイスランド	アイスランド	アイスランド	アイスランド
最下位	イエメン	イエメン	イエメン	イエメン	イエメン
日本	98	101	105	104	101
米国	17	22	23	20	28
中国	61	69	69	87	91

Source:World Economic Forum (WEF)

<http://reports.weforum.org/global-gender-gap-report-2015/part-1/the-global-gender-gap-index-results-in-2015/>
 他